

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和2年2月28日

公表: 令和2年3月5日

事業所名 東郷町児童発達支援事業所ハーモニー

|         |    | チェック項目   | はい | いいえ | 工夫している点                            | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標                              |
|---------|----|--|----|-----|------------------------------------|---|
| 環境・体制整備 | 1  | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である  | 4  | 1   |                                    | 小部屋の利用の仕方の工夫があってもいい。                                  |
|         | 2  | 職員の配置数は適切である   | 3  | 2   | 曜日によって、保育士園児の人数が違うので協力し合っている。      | 障がいの程度によって、必要人数が違い、1対3では単独は無理なので増員希望している。有休をとりやすくしたい。 |
|         | 3  | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている   | 5  | 0   | 発達障害児がすごしやすい環境を目指してしる。             | TEACCHを取り入れた構造化や視覚支援に努めている。                           |
|         | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている  | 5  | 0   | カーテン・衝立を活用している。                    | 体育遊具が常設できるといい。  |
| 業務改善    | 5  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している  | 5  | 0   |                                    | 打合せやクラス会議、職員会議を密に行い共有する。                              |
|         | 6  | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている  | 5  | 0   | 平成30年度から評価表実施している。                 |   |
|         | 7  | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している                                   | 4  | 1   | 平成31年度から評価表実施している。                 |   |
|         | 8  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている   | 0  | 5   |                                    | 今後検討していきたい。   |
|         | 9  | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している  | 5  | 0   | ハーモニーや各機関での研修会に参加                  | 職員同士の復命が大切と実感している。機会を探して学んでいる。                        |
| ※       | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している   | 5  | 0   |                                    |   |
|         | 11 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している   | 1  | 4   | 懇談会でチェック表を使用                       |   |
|         | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 5  | 0   | 担当者会議や、個別懇談会で同じ目標になるように話し合い計画している。 |   |
|         | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている  | 5  | 0   |                                    |   |

|              |    |  |   |   |                        |   |
|--------------|----|--|---|---|------------------------|---|
| 適切な支援の提供     | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている   | 5 | 0 | 各クラスで話し合い、立案、振り返りを行う。  | 保育士間の話し合いを密にし内容を考えている。                            |
|              | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している   | 5 | 0 | 活動の一覧表で共有する。           | 1週間ごとの計画を立てることで、見直しをもって活動を見ている。                   |
|              | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している                                 | 5 | 0 | 日案に反映している              |   |
|              | 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している                               | 5 | 0 | 朝必ず打合せをする              | 他クラスの情報も得られ、共有できる機会なので大切にしたい。                     |
|              | 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している                          | 5 | 0 | その日のうちに報告する。           | 保育士が同じ方向を見て療育し、学びの場になっている。<br>時間が足りない。            |
|              | 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている   | 5 | 0 | 反省や個別記録に記載する           | 事務時間の確保をするため職員間で協力する                              |
|              | 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している  | 4 | 1 | 相談支援事業所に協力、報告する。       | 支援計画の見直す機会を作っていきたい。                               |
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している                            | 5 | 0 |                        |   |
|              | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている  | 5 | 0 | 療育連絡会に参加、連携を取る。        | 専門家や行政との連携に努めていく                                  |
|              | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている |   |   |                        |   |
|              | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている             |   |   |                        |   |
|              | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                | 5 | 0 | 申し送り状を送り連携を取る          | 体験を通し、移行がスムーズに行えるようにする。<br>保育士同士の情報交換が今後の役に立っている。 |
|              | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                            | 5 | 0 | 保育要録と申し送り状の送付。         | 保小連絡はあるが、ハーモニーはないので個別に依頼し交流する。                    |
|              | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                     | 5 | 0 | 年に3回6市1町も交流会に参加。       | 施設の見学の機会を増やす。                                     |
|              | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある                                     | 4 | 1 | 中部保育園との併設なので、機会が多く持てる。 | 保育園の行事に参加したり、交流会を意識して計画する。                        |

|            |    |  |   |   |  |   |
|------------|----|--|---|---|--|---|
|            | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している  | 3   | 2 | 園長主任が参加                                  |   |
|            | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている   | 4   | 1 |  | 懇談会の中で保護者との考え方のずれが生じ、関わり方が難しいと感じている。          |
|            | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている   | 3   | 2 | 心理の先生に相談に乗ってもらう。                         | 日々の支援の仕方を保育士がモデルとなって行っているが、保護者に伝わらないこともある。    |
| 保護者への説明責任等 | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている   | 5   | 0 |  | 年度当初に行うが、理解されていないこともあった。伝え方に工夫が必要。            |
|            | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 5   | 0 | 年2回の個別懇談会にて知らせている。                       |   |
|            | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  | 5   | 0 | 保護者の悩みに対し、保育士全体で相談し支援している。               | 毎日の中での声かけで十分な保護者もいれば月に1回でも足りないと感じる保護者もいる。     |
|            | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している   | 2   | 3 | 父母の会は設定していないので、お楽しみ会や講習会などで交流を持つようにしている。 | 保護者同士の関わり方が難しく、まとまるのが困難。工夫が必要と感じている。          |
|            | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している                           | 5   | 0 | 役場子育て応援課の保健師が相談員として対応。                   | 子ども主体の立場に立ち、できるだけことは行うが、保護者が依存しすぎないよう気を付けていく。 |
|            | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している   | 5   | 0 | 園便りのほか、毎日の連絡を各クラスのホワイトボードで知らせている。        | 見落としがちな保護者には個別で声掛けする。                         |
|            | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している  | 5   | 0 |  |   |
|            | 39 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている   | 5   | 0 | 必要に応じて連絡ノートを使用                           | 口頭伝達だけでなく、書面で丁寧に伝える様務める。                      |
|            | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   | 1   | 4 |  | 今後の課題となる。                                     |
|            | 非  | 41   | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | 5 | 0  | 保育園に設置されている、マニュアルに準じている。                      |
| 42         |    | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   | 5   | 0 | 月に1回行う。                                  | 繰り返すことで、音や行動に慣れてきている。                         |
| 43         |    | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している  | 5   | 0 |  |   |

|        |    |  |   |   |                                 |                             |
|--------|----|--|---|---|---------------------------------|-----------------------------|
| 常時等の対応 | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている                                       | 5 | 0 | 研修会に参加したり                       | チェック回数を増やし、誤飲誤食が無いように気を付ける。 |
|        | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  | 5 | 0 |                                 |                             |
|        | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   | 5 | 0 | 研修に参加。直接的な虐待だけでなく、不登園も虐待と捉えている。 |                             |
|        | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している |   |   |                                 |                             |

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。